

尾張北支部

施設見学会

- ・日時：10月23日（水）～24日（木）
- ・視察先：（株）リョーシン（富山市婦中町）
（株）富山環境整備（富山市婦中町）
- ・参加者：17名

当日は午前8時30分に小牧市の商業施設に集合し、大型バスにて見学地に向かいました。途中、駅弁業として100年の歴史と、鱈寿司を全国に広めた「ますのすし本舗 源」にて昼食を摂り、見学先への打ち合わせを行いました。

午後2時に（株）リョーシンに到着し担当者に案内され社内見学をしました。

同社の事業内容は、環境関連機器の製造・販売・設置、混合廃棄物選別機、破碎機、光学式選別機、ミスト噴霧装置、焼却炉、RPF製造設備他です。

特に産業廃棄物関連のプラントメーカーとして、最新のAI技術を組み込んだプラントを得意としています。例えば二軸式の破碎機では、軸にかかる負荷を検知することができ、軸ごとの荷重を自動調整し、これまで処理困難物であった魚網も破断します。

また、「ムサシ」「ベンケイ」と名付けられた一連のアーム型自動選別機の特長として、これまでベルトコンベアで流れてくる廃棄物は、人による選別で行われてきましたが、選別作業が自動化されています。「ベンケイ」には、最新技術のカメラ機能が駆使され、最大7品目の選別が可能です。社内を一巡して見学を終え、参加者は宿泊先へ向かいました。



二日目は（株）富山環境整備にて施設見学を行いました。同社は委託された廃棄物を確実に適正処理し、廃棄物の発生抑制・リサイクル推進を掲げ、地域環境に配慮しながら「循環型社会の実現」を目指しているとのこと。産業廃棄物の選別から中間処理、最終処分まで、同じ敷地内において行っており、国内唯一の「一極集中型システム」により、高効率化・省エネルギー化を実現しています。特徴として、3つの破碎・選別ラインが存在し、同一敷地内に焼却施設、最終処分場が整備されているため、廃棄物の透明性が高く、速やかに最終処分まで適正に処理されます。

現在、約380名の従業員が焼却施設や低レベルPCB処理施設、管理型最終処分場などで就業しています。既に閉鎖した最終処分場では、跡地利用としてトマトなどの野菜や花木が栽培され、焼却施設から排出される排熱が再利用されていました。

人材確保に関しては「採用においては大変苦戦している。」との説明が印象的でした。

帰路のバスの車中では、二か所の施設見学の感想や意見交換を行い、参加者一同の懇親と各社の環境への取り組みについて、見識を深めることができた有意義な事業でした。